

防府競輪活性化計画
(最終案)

令和 3 年 3 月

防 府 市

産業振興部競輪局

目 次

I	防府競輪活性化計画	
1	策定の目的	1
2	計画期間	1
II	防府競輪の現状と課題	
1	施設の現状	2
2	経営の現状	12
3	外部要因による環境変化	15
4	防府競輪の課題	16
III	防府競輪活性化のコンセプト	18
IV	活性化に向けた方向性と取組	
1	交流の輪が広がる競輪場	19
2	快適で利用しやすい競輪場	21
3	安定した経営を目指す競輪場	21
V	施設整備	
1	施設整備の方向性	23
2	各施設の整備概要	23
3	周辺施設の整備方針	27

I 防府競輪活性化計画

1 策定の目的

防府競輪の舞台である防府競輪場は、昭和 24 年（1949 年）9 月 22 日に開設され、令和 2 年 9 月に 71 周年を迎えた。その間、市の一般会計へ約 50 億円を繰出し、市財政に貢献するとともに地域経済の活性化にも寄与してきた。

車券売上げが平成 9 年をピークに減少するなど厳しい状況にあったが、ここ数年は、インターネットなどによる車券購入やお客様のライフスタイルに合わせたミッドナイト競輪やモーニング競輪の開催などにより、売上げ、収益ともに回復傾向にある。さらに、地元選手が目覚ましい活躍が追い風となり、防府競輪への注目度が高まっている。

本計画は、公営競技の収益による市財政への貢献はもとより、スポーツの振興や観光振興などに寄与し、防府競輪場を市民に親しまれる場とすることを目的として策定するものである。

2 計画期間

令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間とする。

II 防府競輪の現状と課題

1 施設の現状

(1) 防府競輪場

① 施設の概要

施設名：防府競輪場

所在地：山口県防府市国分寺町 8 番 2 号

開設年：昭和 24 年（1949 年）

管理施行者：防府市

収容人員：8,500 人（消防法による）

座席収容人員：2,037 人

敷地面積：35,026.46 m²

用途地域：なし（市街化調整区域）

② アクセス

防府競輪場は、JR 防府駅から北に約 2km、日本三天神の 1 つである防府天満宮に程近い、標高約 45m の高台にある。

公共交通機関である路線バスの停留所が付近にないため、車券発売日には JR 防府駅から無料バスを運行している。

③ 各施設の状況

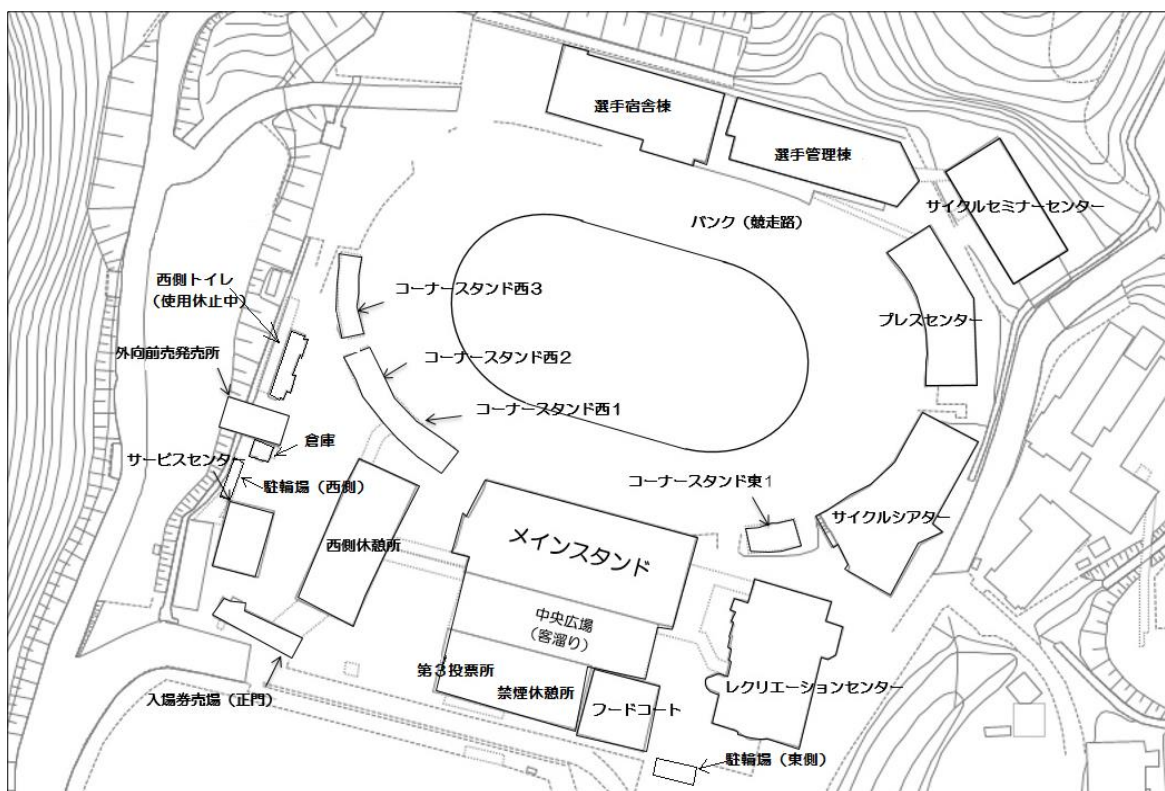
現在使用している防府競輪場の施設は、最も古いものでは使用開始から約半世紀が経過しており、建物及び設備機器等の老朽化が顕著になっている。各施設の状況は以下のとおりである。

【主要施設一覧】

名称	延床面積	建築年	構造
メインスタンド（第 3 投票所等を含む）	3,711.58 m ²	昭和 42 年（1967 年）	鉄骨造／ 鉄筋コンクリート造
選手宿舎棟	2,717.52 m ²	平成 11 年（1999 年）	鉄筋コンクリート造
選手管理棟	2,219.68 m ²	平成 7 年（1995 年）	鉄骨造
サイクルセミナーセンター	928.60 m ²	昭和 56 年（1981 年） 改築平成 6 年（1994 年）	鉄筋コンクリート造
プレスセンター	852.17 m ²	平成 7 年（1995 年）	鉄骨造
サイクルシアター	1,682.41 m ²	平成 8 年（1996 年）	鉄骨造
レクリエーションセンター	1,642.90 m ²	平成 2 年（1990 年）	鉄筋コンクリート造
フードコート	225.90 m ²	平成 18 年（2006 年）	鉄骨造
西側休憩所	679.39 m ²	昭和 50 年（1975 年）	鉄骨造

サービスセンター	213.99 m ²	昭和 54 年(1979 年)	鉄骨造
コーナースタンド東 1	63.00 m ²	昭和 44 年(1969 年)	鉄骨スレート造
コーナースタンド西 1	75.04 m ²	昭和 24 年(1949 年)	鉄骨スレート造
コーナースタンド西 2	93.78 m ²	昭和 24 年(1949 年)	鉄骨スレート造
コーナースタンド西 3	78.66 m ²	昭和 41 年(1966 年)	鉄骨スレート造
外向前売発売所	126.03 m ²	平成 16 年(2004 年)	鉄骨造
バンク (競走路)	周長 333.333m	平成 30 年(2018 年)	アスファルト

【施設配置図】



a メインスタンド

昭和 42 年 (1967 年) に整備されており耐震性に問題がある。

1・2 階が投票所、3 階が特別観覧席となっている。4 階には開催本部、審判室など中核となる施設がある。



b 選手管理棟・選手宿舎棟

それぞれ平成7年・平成11年に建築された比較的新しい施設であり、出場する選手を管理する施設である。



c サイクルセミナーセンター（事務所）

1階が競輪局事務所、2階は自転車競技団体等の倉庫として使用されている。



d プレスセンター

1階は競輪選手会事務所、ローラー台などの設備を備えた練習室等、2階は開催時に新聞社や専門紙の記者が詰めるプレスセンターとなっている。



e サイクルシアター

1階が投票所、2階が有料席、3階がイベントホールになっているが、エレベーターを備えていないため、高齢者や身体が不自由な方には不便である。



f レクリエーションセンター

1階が投票所、2階が計算センター、3階が特別来賓席となっている。他場開催の場外ナイター競輪発売中はレクリエーションセンター1階のみを開場している。



g フードコート

建築年が最も新しい建物である。食堂が2店舗入居可能であるが、令和2年度は、1店舗のみとなっている。



h 西側休憩所

1階は、本場開催時にメインスタンド3階の特別観覧席指定席券の販売所やイベント会場として、2階は関係者休憩所及び倉庫として使用している。



i サービスセンター

開催時には来場者の案内サービスをしており、夜間は宿直担当の詰め所になっている。東側の投票所と離れており、各施設との連絡に時間がかかる。



j コーナースタンド（東 1、西 1・2・3）

屋根付きのコンクリート製観覧席である。屋根部分が老朽化しており、安全性に問題がある。基礎部分はバンクの土留めとしての役割を果たしている。



k 外向前売発売所

競輪場西側を南北に走る市道に駐車場を介して面しており、自動車で行くまで来られるため便利である。早朝 7 時 20 分から発売しているが、収益アップに繋がっていない。



l バンク（競走路）

平成 30 年度に全面改修工事を完了しており、バンクの一部を防府競輪のイメージカラーである「幸せます」のピンク色に舗装している。



④ その他施設・設備について

m 観覧席、モニター観覧席、投票所

来場者が利用する観客席やモニター観覧席の整備状況は次ページの表のとおりである。また、車券を購入する投票窓口については、各施設毎の投票窓口数及び自動発払窓口数を同頁の表で示している。観覧席数は合わせて 1,518 席あるが、席数が来場者と比べて過剰となっている。



特別観覧席（サイクルシアター2階）



モニター観覧席（レクリエーションセンター1階）



第1投票所（メインスタンド1階）



モニター観覧席（サイクルシアター1階）

【観覧席数】

施設名	場所	席数	備考
メインスタンド一般席	メインスタンド2階	774席	無料・屋外
メインスタンド特別観覧席	メインスタンド3階	235席	有料・屋内
コーナースタンド	東1、西1、2、3	441席	無料・屋外
サイクルシアター	2階・特別観覧席A	68席	有料・屋内
合計		1,518席	

【モニター観覧席数】

施設名	発売場座席数	備考
メインスタンド中央広場	158席	無料
メインスタンド禁煙室	38席	無料
サイクルシアター1階	60席	無料
サイクルシアター2階（特別観覧席B）	70席	有料
レクリエーションセンター1階	193席	無料
合計	519席	

【投票窓口数】

施設名	場所	投票窓口数 (うち自動発払機窓口数)
第1投票所	メインスタンド1階	45(7)箇所
第2投票所	メインスタンド2階	6箇所
特別観覧席	メインスタンド3階	12(1)箇所
第3投票所	メインスタンド南側	3箇所
サイクル1階	サイクルシアター1階	2(2)箇所
サイクル特別観覧席	サイクルシアター2階	5(3)箇所
来賓席	サイクルシアター3階	2(1)箇所
外向前売発売所	競輪場西側	4(1)箇所
レク投票所	レクリエーションセンター1階	4(4)箇所
レク3階	レクリエーションセンター3階	2箇所
合計		85(19)箇所

n トイレ

洋式トイレの設置数は、和式トイレと比較すると若干上回っているが、設置数は十分とはいえない。また、温水洗浄便器の設置数も少ない。

【来場者用大便器設置数】

施設名	男性用トイレ			女性用トイレ		
	和式	洋式 (温水洗 浄便器 なし)	洋式 (温水洗 浄便器 あり)	和式	洋式 (温水洗 浄便器 なし)	洋式 (温水洗 浄便器 あり)
西側休憩所	1		1	1		2
レクリエーションセンター1, 2階	2		3	3		3
レクリエーションセンター3階	1			2		
サイクルシアター1階	1	1	2	2		2
サイクルシアター2階特別観覧席	1		2	1		1
サイクルシアター3階来賓席	1		1	1		1
メインスタンド特別観覧席	1			1		
西側トイレ	使用中中止中					

○ 駐車場・駐輪場

本場開催や場外開催の場合、来場者数が限られるため比較的近い第1駐車場や第3駐車場、多目的広場駐車場への駐車が多いが、多目的広場駐車場が満車になるのは、GⅢの記念競輪開催時や年末の競輪グランプリ発売時など年間4～5日である。北側駐車場は不便さからほとんど利用されていない。

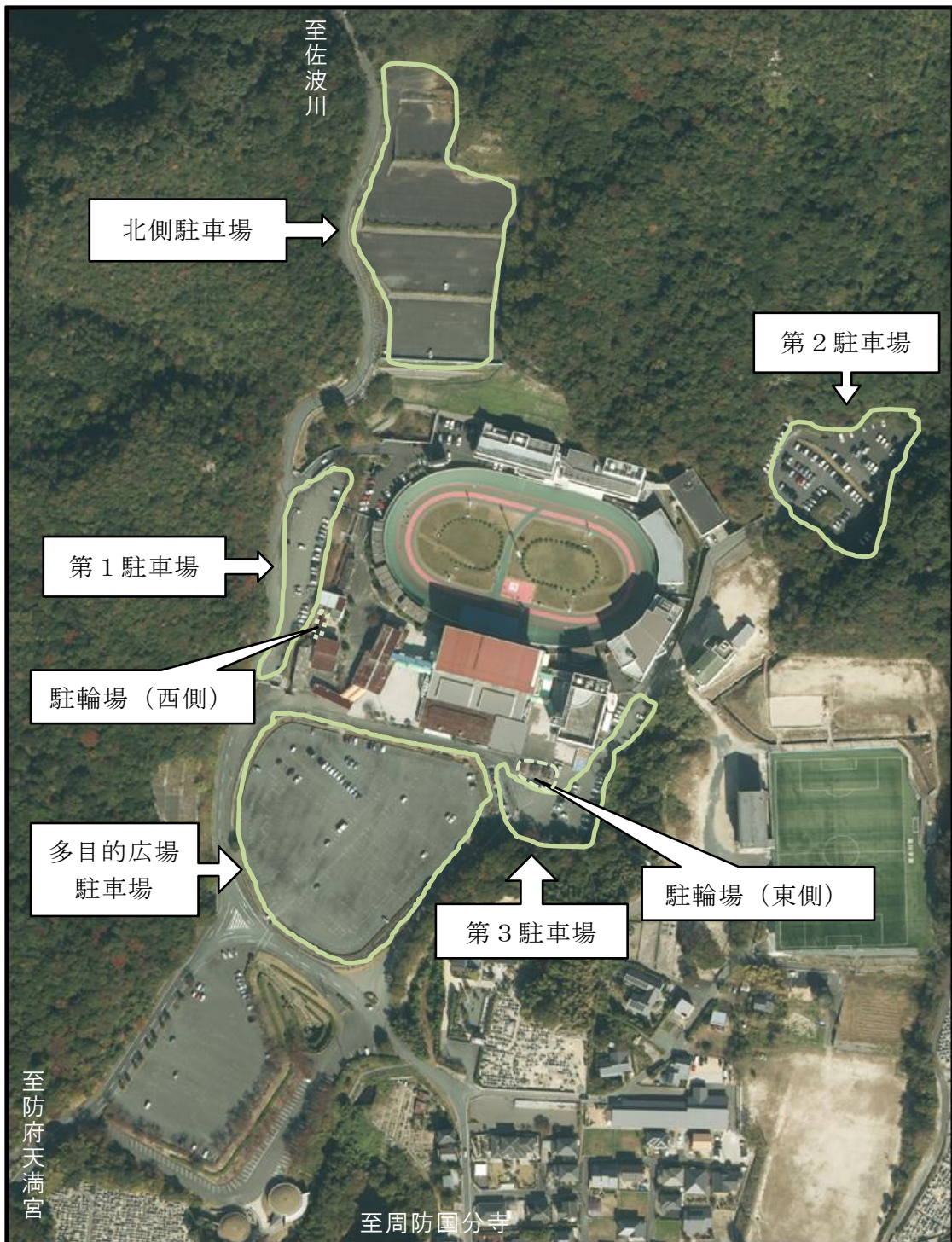
駐輪場は、一定のバイクや自転車の利用がある。



【駐車場・駐輪場概要】

名称	面積	収容台数	備考
第1駐車場	2,400 m ²	118 台	
第2駐車場	3,759 m ²	162 台	関係者用
第3駐車場	2,700 m ²	97 台	うち障害者用3台含む
北側駐車場	8,463 m ²	380 台	
多目的広場駐車場	5,500 m ²	370 台	
駐車場合計	22,822 m ²	1,127 台	
駐輪場（東側）	54 m ²	70 台	
駐輪場（西側）	25 m ²	30 台	

【防府競輪場周辺状況】



(2) 駅前サービスセンター

防府駅東側の鉄道高架下に設置された前売発売所である。借地であるため固定費がかかるが、立地条件が良いため、防府競輪の場外売上額の約 1/3 を占めている。専用場外車券売場として設置されたが、建築後 20 年以上経過しており老朽化が進んでいる。

① 概要

施設名：防府競輪場前売専用場外車券売場「駅前サービスセンター」

所在地：山口県防府市天神一丁目 1 番 30 号

竣工年：平成 9 年（1997 年）

管理施行者：防府市

駐車場収容台数：26 台

敷地面積：1,332 m²



② アクセス

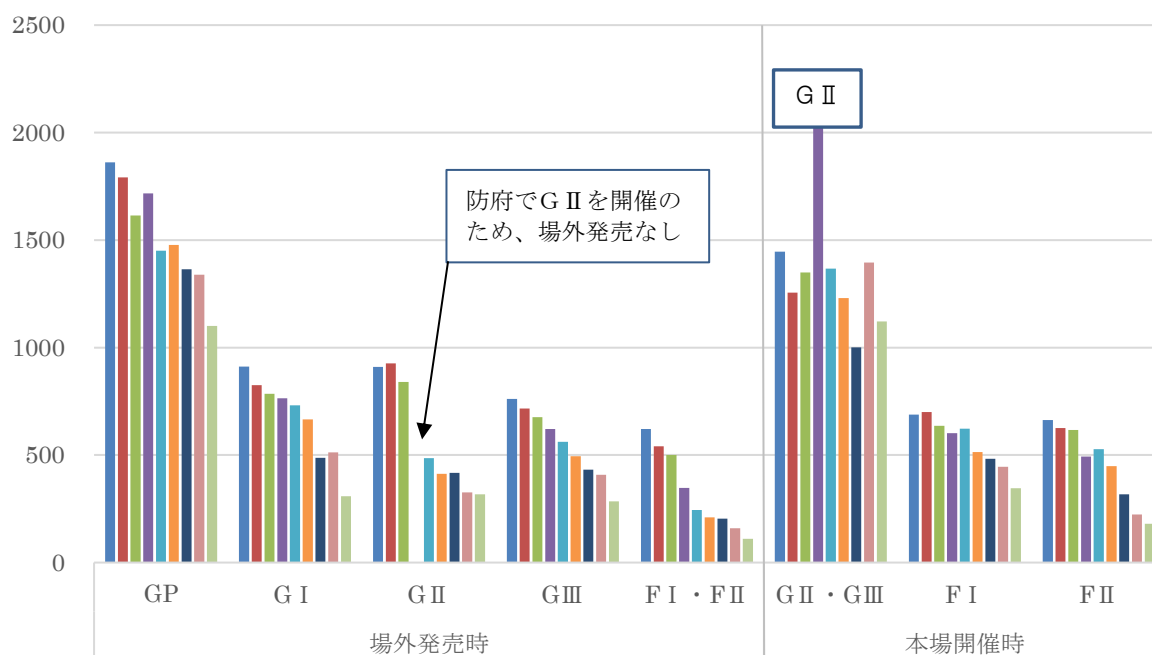
駅前サービスセンターは、J R 防府駅から東に約 400m の山陽本線の鉄道高架の下にある。駅から近いため公共交通機関でのアクセスが良く、また、南北の両側入口がそれぞれ市道に面しているため、マイカーによるアクセスも問題ない。駐車場収容台数が 26 台であるが、G P 及び G I 以外の通常開催時であれば十分足りている。

2 経営の現状

(1) 入場者数の推移

防府競輪場の入場者数の推移をみると、経済環境の変化やレジャーの多様化のほか、インターネット投票等への需要移行とも相まって下降線を辿っている。年間発売日数の9割程度は「GⅢ以下の場外発売」または「FⅠ以下の本場開催」であり、それらの平成30年度以降の1日の平均入場者数はいずれも500人を下回っている。

【防府競輪場における1日あたりの平均入場者数（年度・開催グレード別）】



単位：人

■ H24 ■ H25 ■ H26 ■ H27 ■ H28 ■ H29 ■ H30 ■ R元 ■ R2

(R2は決算見込)

※「開催のグレード」について

全ての競輪の開催は、上からGP（グランプリ）、GⅠ、GⅡ、GⅢ、FⅠ、FⅡの順で6つのグレードに格付けされている。

GP：毎年12月30日に開催される競輪界最高峰のレース。その年のGⅠ優勝者や賞金獲得上位選手から9名が選出され、1レース限りで最強王者を決定する。

GⅠ：S級上位選手が参加する開催で、優勝者はGP出場権を得ることができる。

2月の全日本選抜競輪を始め、全6開催ある。

GⅡ：S級選手により開催され、3月のウィナーズカップを始め、全4開催がある。

GⅢ：記念競輪とも呼ばれ、毎年各競輪場1回開催される。S級選手による開催。

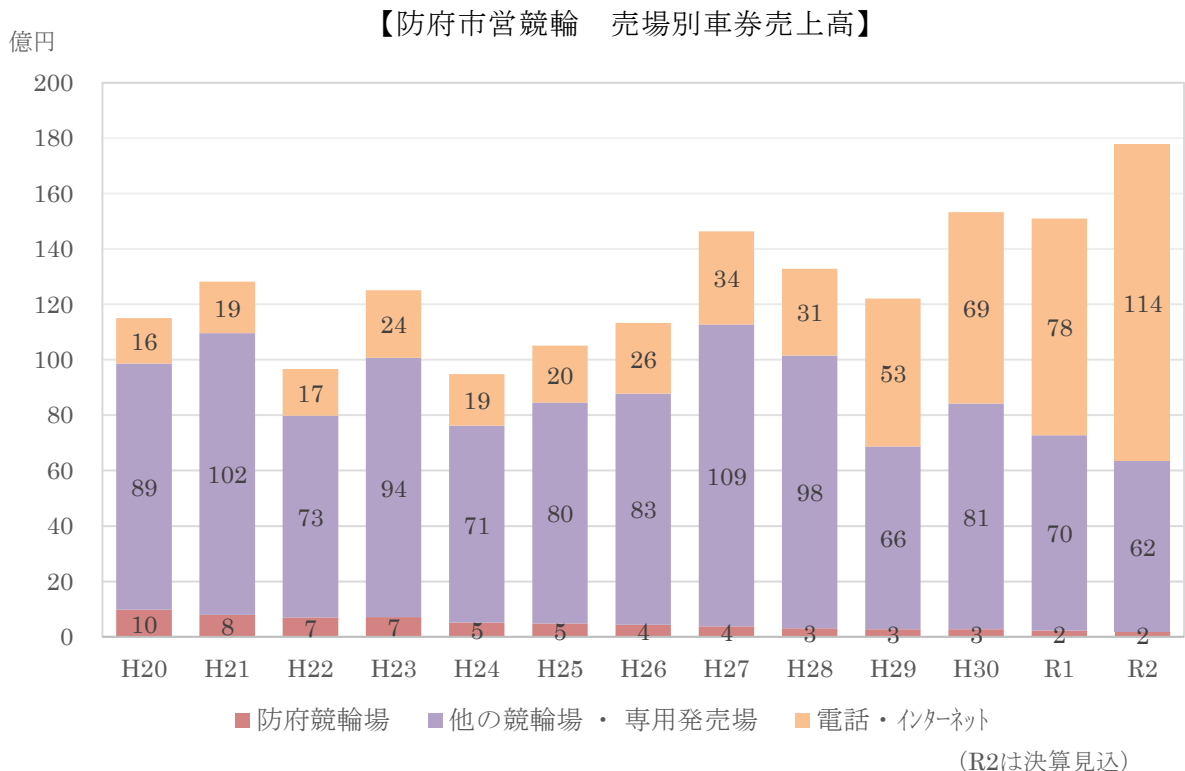
FⅠ：S級選手のレースとA級（1、2班）選手のレースが行われる。

FⅡ：A級（1、2、3班）選手によるレースが行われる。

(2) 車券売上

① 本場開催での売上げ

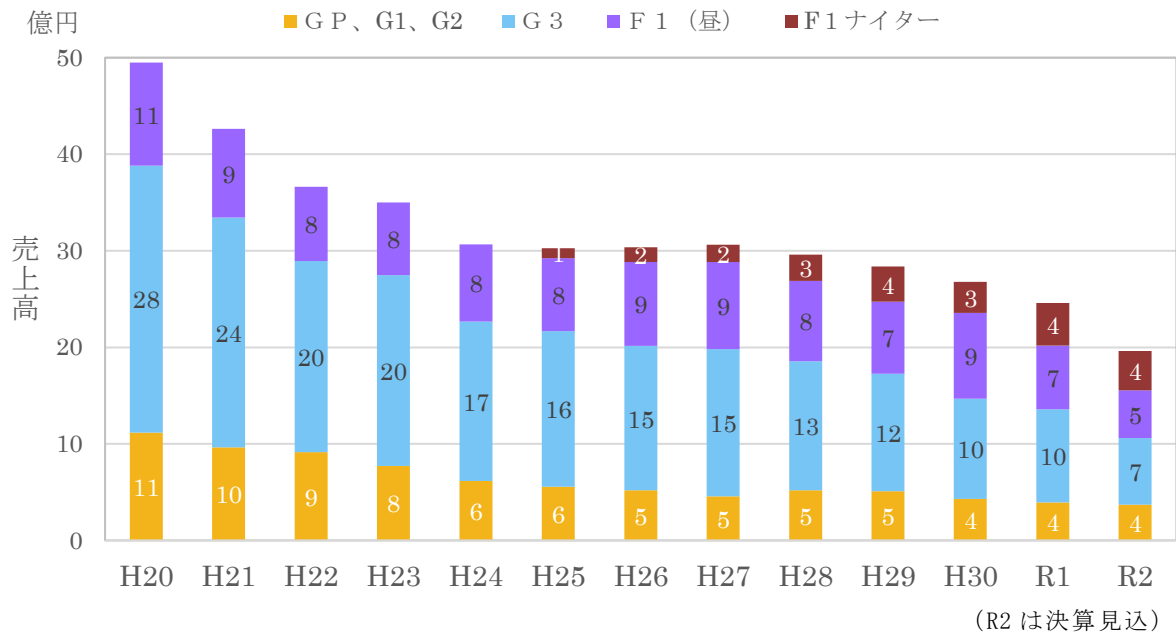
車券売上げの推移について、下のグラフ【防府市営競輪 売場別車券売上高】で年度毎の売場別売上高を示しているが、総売上げは、過去 10 年間ではおおむね少しずつ増加している。この傾向は、防府競輪だけでなく、全国の競輪や競艇などの公営競技全般でも同様である。電話・インターネットによる売上げが近年急激に伸びており、総売上げの半分以上を占めるようになってきた。これに対して、防府競輪場での売上げは全体の 2%未満となっている。



② 場外開催での売上げ

他場で開催する競輪については、防府競輪場及び駅前サービスセンターにおいて、年間 332 日（令和元年度）場外開催している。防府競輪場での売上げについては、次ページのグラフ【場外発売 グレード別車券売上高】のとおりである。ナイター競輪の場外発売を、平成 25 年度から駅前サービスセンターで開始し、平成 27 年から防府競輪場でも本格的に発売したことから売上げが一時的に戻っているものの、年々減少し続け、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により 4、5 月は開催出来なかったこともあり、大幅に減少している。

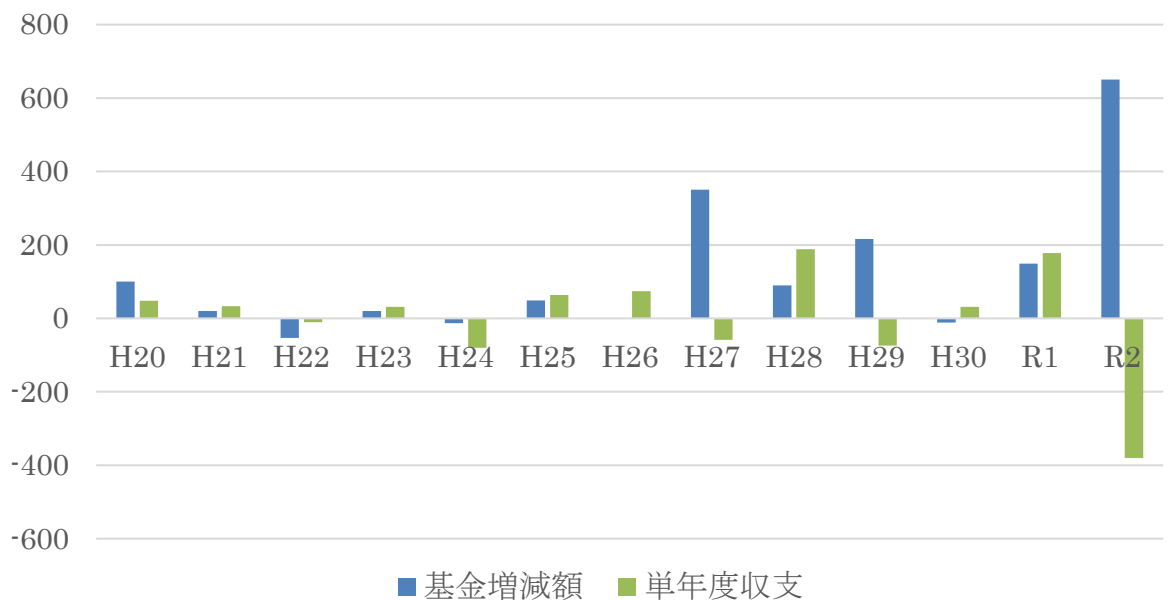
【場外発売 グレード別車券売上高】



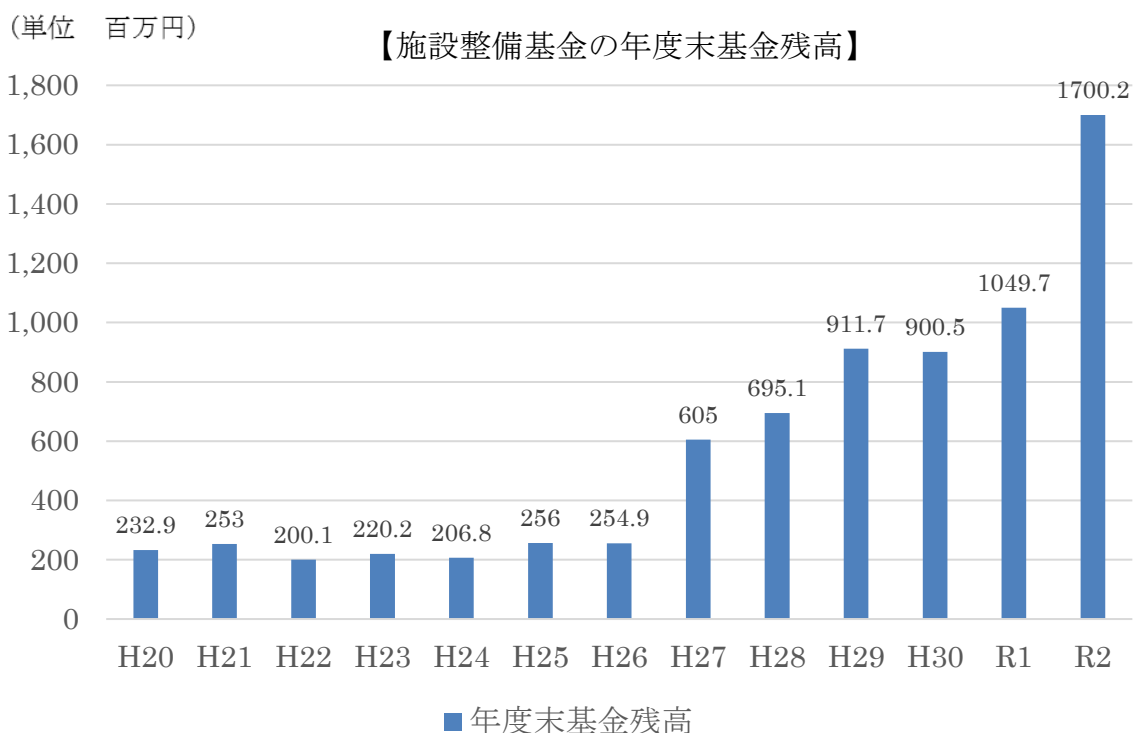
(3) 収支及び施設整備基金への積立て

次の2つのグラフは、防府競輪の収支と施設整備基金への積立ての推移を示している。単年度収支については、赤字の年度もあるが、施設整備基金については、平成27年度から積立て金額を増やし、令和2年度末には17億円の残高を見込んでいる。

【基金増減及び単年度収支の推移】



(R2 は決算見込)



(R2 は決算見込)

(4) 市財政への貢献

平成 20 年度以降、市の一般会計への繰出金については、平成 22 年 2 月に開催した『中国・九州北部豪雨災害復興支援競輪』により、9 千 6 百万円を繰出し、令和 2 年度には収益の増加により 1 億 1 千万円を繰出すこととしている。

3 外部要因による環境変化

外部要因による防府競輪を取り巻く環境変化について、以下で触れることとする。

(1) 新型コロナウイルス感染症による環境変化

令和 2 年に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」は、人々の生活スタイルまで変化させているが、インターネットでの売上げが以前から好調であったグレードや時間帯以外へ拡大している傾向が出ており、人々の消費性向が変化していると考えられる。

(2) 自転車を取り巻く環境変化

自転車の活用を総合的かつ計画的に推進する「自転車活用推進法」が平成 29 年 5 月 1 日に施行された。山口県においても「やまぐち自転車活用推進計画」が令和元年 12 月に策定され、自転車活用の推進が図られている。また、令和 3 年に開催が延期された「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」でもケイリンを含めた自転車競技が実施されることとなっており、健康志向の高まりと相まって、サイクルスポーツへの注目度が高まっている。

4 防府競輪の課題

これまで確認した現状から、防府競輪の課題について、以下の3つの項目でまとめた。

(1) 競輪場のイメージ刷新

令和2年4月に30歳代から50歳代までの防府市在勤の一般女性に対して実施したアンケート結果によると、防府競輪場に対するイメージとして、「建物が古い、汚い」「男性ばかりで入りづらい」など、マイナスイメージが目立った。公益財団法人JKAが全国の競輪場で実施したアンケート調査でも同様の結果が出ており、競輪そのもののイメージについては、業界をあげての対策が必要と言える。

本市においても、市民の競輪に対するイメージを転換するためには、市と競輪関係者が一体となって対策を進めていくことが求められる。

そのためには、防府競輪場が市民に親しんでもらえる場となるよう、施設の整備やおもてなしの雰囲気づくりなどを行っていく必要がある。

(2) 安全・安心・快適な集客施設

① 施設の老朽化、耐震性

メインスタンドは、昭和42年に、コーナースタンドは昭和24年、41年と44年に整備されており、老朽化による維持管理上の問題が頻発している。また、集客施設の多くは、昭和56年の「新耐震設計法」の制定以前の建築であるため、耐震基準を満たしていないものがある。来場者の安全・安心を確保するためにも早急な対応が必要である。



② 来場者に優しい施設

防府競輪場の集客施設であるメインスタンド、レクリエーションセンター及びサイクルシアターは、2階・3階があるにもかかわらずエレベーターやエスカレーターが設置されておらず、来場者が上の階にある特別観覧席を利用しない理由の1つとなっている。また、場内には段差も多いため、来場者の高齢化とも相まって転倒事故も度々報告されており、バリアフリーの対応が急務となっている。

施設配置の面でも、広い場内に複数の集客施設や来場者サービスの要であるサービスセンター、食堂などが散在していることにより、来場者の利便性を大きく損なっていることから、施設の集約とシンプルな動線の確保が求められる。

衛生面でも、令和2年4月から施行された改正健康増進法に対応する分煙対策及び多目的トイレ、温水洗浄便器の設置など、誰もが快適に利用できる設備の整備が必要である。



③ 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年に世界中に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、未だ収束する見通しは立っておらず、ウイルスとの共生を見据えた対応が必要である。



(3) 持続的な収益の確保

大規模な施設修繕等が必要な場合に備えて施設整備基金に積立てるためには、持続的に収益を確保することが必要である。

収入面では、売上げの柱がインターネット投票に移っており、その伸びが近年の経営を支えてきたが、さらに伸ばすための方策が必要である。一方、入場者数が毎年のように減少しているが、長期的に売上げを確保するためには、防府競輪ファンの裾野を広げ、競輪場に足を運んでその魅力を第三者に伝えてもらえる新たな競輪ファンを開拓することが必要である。

支出面では、人件費や施設管理費などの運営経費を抑えるための方策や既存施設の新たな活用や利用を検討していく必要がある。

そして、公営競技の本旨でもある市財政への貢献については、持続的に行っていくことが求められる。

Ⅲ 防府競輪活性化のコンセプト

防府競輪の現状と課題を踏まえ、以下の3つを防府競輪を活性化するためのコンセプトとして掲げる。

☞ 「交流の輪が広がる競輪場」

子どもから高齢者までの幅広い世代の方々、また初めて来場される方など、誰もが気軽に足を運べる競輪場をめざす。

競輪ファン、観光客、サイクルスポーツを楽しむ人など多様な人々が集える場とする。

☞ 「快適で利用しやすい競輪場」

来場者に分かりやすく、安全・安心な施設となるよう必要な整備を行う。

☞ 「安定した経営を目指す競輪場」

競輪事業を取り巻く環境の変化を見据えた、柔軟な経営が重要である。将来にわたって持続可能な競輪場とするため、経営の健全化を進める。

本来の公営競技の目的である市財政への貢献を行っていく。

IV 活性化に向けた方向性と取組

3つのコンセプトに連動した、進めるべき施策の方向性及び取組について以下のとおり示すこととする。

1 交流の輪が広がる競輪場

コンセプトに沿った4つの方向性に従った取組を推進する。

(1) 明るいイメージの創出

本競輪場の特徴である「幸せます」のピンク色を用いた場内整備や愛称の命名を行うなど、明るいイメージの創出に努める。

《主な取組》

- ・ 防府競輪場のイメージカラーである「幸せます」のピンク色をあしらった施設整備による明るいイメージの創出
- ・ 防府競輪場をより親しんでもらうための愛称の命名
- ・ 「おもてなし」の雰囲気づくりのための競輪場関係者への接遇教育の実施
- ・ 競輪初心者へのレクチャーを始めとした様々な来場者のニーズに応える体制整備
- ・ 競輪場利用者でない方も利用できる飲食スペースの整備

(2) 新たな交流の創出

子どもから高齢者までの幅広い世代の方々や女性が、気軽に立ち寄り、楽しめるような場を提供することで、新たな交流が生まれるきっかけを作る。

《主な取組》

- ・ 「おもしろ自転車」や子ども向けの「キックバイク（ペダルなし二輪玩具）」等の貸出し



- ・ 子ども向けの自転車教室やキックバイク競技会等の開催



〈広島競輪場・サイクルパーク〉

- ・ 各種イベントの開催



夏祭りイベントの開催

(3) サイクルスポーツの振興

交流推進や技能向上のため、アマチュアのサイクリストや自転車競技のジュニア選手などに対して支援するとともに、人と人をつなぐ人材の育成に努める。

《主な取組》

- ・ 市民がバンクを自転車で走る体験イベントの開催
- ・ サイクルスポーツの裾野を広げるため、ジュニア選手等の育成を行う自転車競技団体等への支援



オムニウム自転車競技会の開催



ジュニアクラブの練習

- ・ サイクリングターミナルと連携したサイクルイベントの企画・開催
- ・ 競輪場施設内に自転車関連アニメ等のサイクルスポーツコンテンツの展示やサイクル関連イベント情報の紹介を行うサイクルスポーツブースの設置

(4) 観光資源としての活用

防府競輪場の情報発信や関係団体との連携による観光客の誘客を推進する。

《主な取組》

- ・ 防府競輪場の魅力を再発見するための写真撮影会などの開催
- ・ 防府観光コンベンション協会等と連携した競輪体験ツアーなどの企画についての検討
- ・ 地元選手及び防府競輪関連グッズの開発・活用



防府競輪マスコット人形

2 快適で利用しやすい競輪場

コンセプトに沿った3つの方向性に従った取組を推進する。

(1) 老朽化施設の整備

老朽化した施設の改修等を実施し、来場者に快適な空間を提供する。

《主な取組》

- ・ V 施設整備 参照

(2) 来場者に分かりやすい施設

来場者の動線の最適化を図るとともに、サイン等により分かりやすい競輪場の整備を行う。

《主な取組》

- ・ V 施設整備 参照

(3) 安全・安心な施設

来場される方の利便性に配慮したバリアフリー、ユニバーサルデザインによる施設整備を行う。

また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行う。

《主な取組》

- ・ 段差がある箇所へのスロープ等の設置や複数階の施設へのエレベーターの設置、多目的トイレの設置
- ・ 新型コロナウイルス感染症を想定した「新しい生活様式」の実践例や、競輪業界が策定した「感染拡大予防ガイドライン」に沿った感染防止対策の実施

3 安定した経営を目指す競輪場

コンセプトに沿った4つの方向性に従った取組を推進する。

取組の実施により、結果として市への財政貢献を果たすことで、市民の防府競輪に対する理解に繋げていく。

(1) ファン獲得の戦略

場内外において、競輪の魅力を分かりやすく伝えるための様々な施策を実施するとともに、地元のスター選手のPRや魅力ある競輪情報を発信することにより、新たなファン獲得に努める。

《主な取組》

- ・ 生の競輪を観ることが出来る本場開催日数の引上げ
- ・ 迫力ある競輪を間近で体感できる空間の確保
- ・ SNS等による競輪の魅力発信

- ・ 地元スター選手のテレビ番組等への出演



(2) 売上増大のための方策

本場開催の形態や投票方法などの見直し、来場者へのサービス充実などによる車券の売上増大を図る。

《主な取組》

- ・ インターネット投票の売上げを伸ばすための防府競輪独自の映像・番組制作、キャンペーン等の企画
- ・ キャッシュレス投票システムの導入等による車券購入者へのサービス提供

(3) 効率的で計画的な事業運営

運営コストの見直しのため、新たな業務委託の検討などに取組むとともに、使用頻度の低い施設の有効利用を図る。

また、施設の計画的な改修・整備を行うための財源を確保するため、施設整備基金への積立てを行う。

《主な取組》

- ・ 業務を外部委託した場合の経費削減効果の検証
- ・ 施設整備による集客施設の集約による運営経費の削減
- ・ 本場開催のみで使用する施設等、使用頻度が低い施設の有効利用
- ・ 施設整備計画等に基づいた施設整備基金の積立て

(4) 市財政への貢献

安定した収益を確保した上で、市財政への貢献を行っていく。

防府競輪の貢献について市民の認知度を高めるためのPRを行う。

《主な施策》

- ・ 一般会計への繰出しを行う。
- ・ 防府競輪の貢献についてホームページ等で紹介する。

V 施設整備

1 施設整備の方向性

「IV活性化に向けた方向性と取組」を踏まえ、下記の施設整備の方向性を示すものとする。

- ・ 新耐震基準以前に建築され老朽化が進んだ施設、または、今後使用しない施設であって、運営上支障がある場合は撤去する。
- ・ 有効利用が可能な施設は継続して使用する。
- ・ 撤去した施設の機能を他で補完することができない場合は更新する。
- ・ 施設管理上または経営戦略上、新たに整備することが適当と認められる場合に限り整備する。
- ・ 既存施設の維持管理を適切に行いながら、長寿命化に向けて計画的に施設改修を行っていく。

2 施設の整備概要

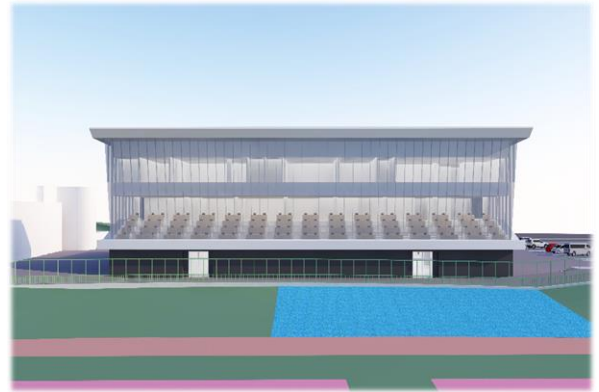
(1) 既存施設の整備方針

施設名	整備方針	備考
メインスタンド	更新（解体・改築）	同じ場所
フードコート	更新（解体・改築）	場所の移転
コーナースタンド	更新（一部解体・改修）	同じ場所
中央広場 第3投票所 禁煙休憩所 正門 サービスセンター 西側休憩所 倉庫 西側トイレ	撤去	必要な機能はメインスタンドに持たせる
外向前売発売所	撤去	
サイクルシアター レクリエーションセンター	計画的な施設改修	集客イベント等での活用（ただし、多くの来場者が予想される場合は投票所、観覧席として使用）
選手宿舎棟 選手管理棟 サイクルセミナーセンター プレスセンター	計画的な施設改修	継続して選手管理・管理施設として使用

【メインスタンドの規模・設備等】

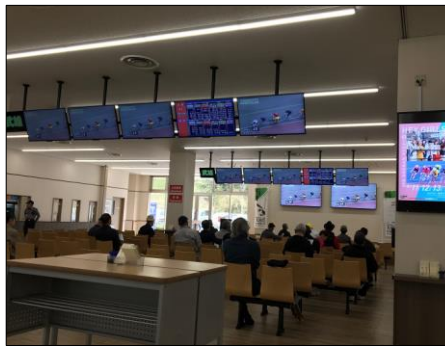
階数：3階建て

延床面積：2,500～3,000 m²程度



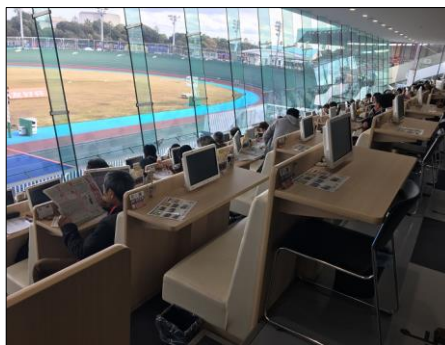
〈イメージ図〉

1階：インフォメーション、モニター観覧席、投票所、サイクルスポーツブース、エレベーター、多目的トイレ、授乳室、喫煙室、倉庫等



〈武雄競輪場〉

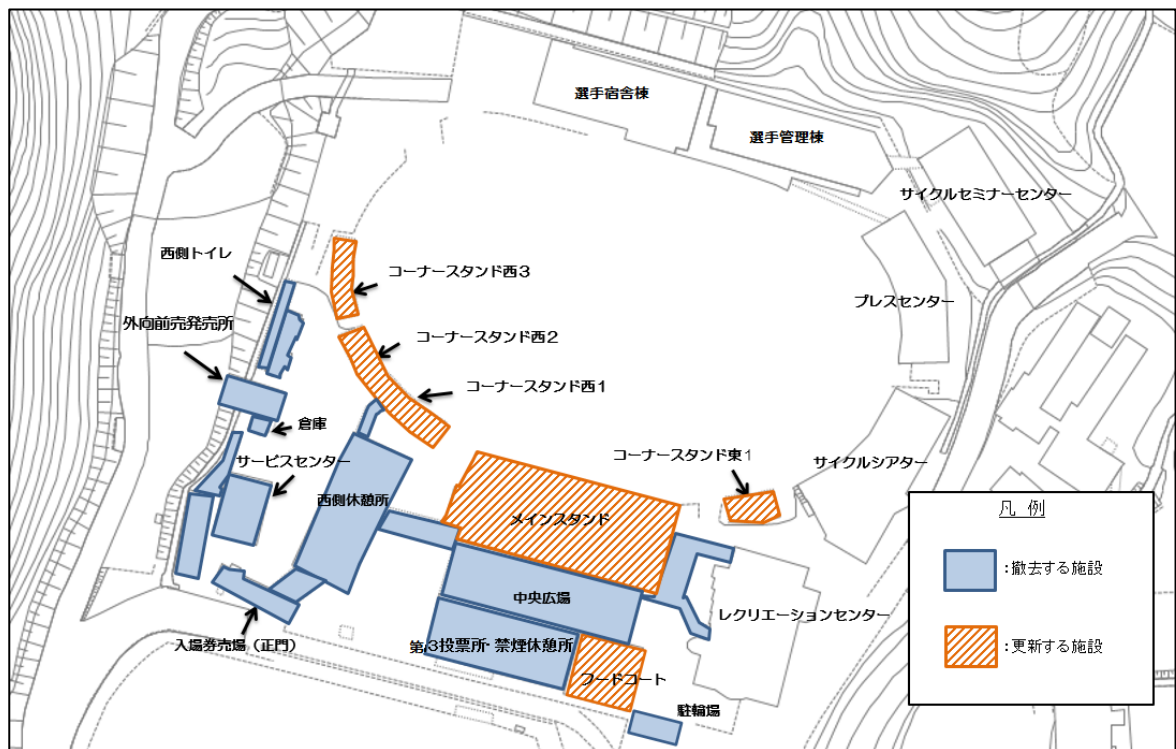
2階：観覧席、投票所、トイレ、喫煙室、倉庫等



〈別府競輪場〉

3階：開催執務委員長室、審判室、放送室、来賓室、集計センター、トイレ、倉庫等

【撤去・更新する施設】



(2) 新たに整備する主な施設エリア

施設エリア	機能等
交流ゾーン	駐車場・交流スペース

(3) 駐車場・駐輪場及び東西道路の整備

第3駐車場を廃止し、メインスタンド西側に新たに駐車場を整備する。既存駐輪場（東側・西側）を廃止し、新たに駐輪場を整備する。

また、東西方向に走る道路を自動車の対面通行ができるよう拡幅する。

【駐車場・駐輪場の整備方針】

名称	整備方針	備考
第1駐車場 第2駐車場 北側駐車場	現状維持	
多目的広場駐車場	再整備	関係部署と調整のうえ実施する
第3駐車場	廃止	
駐車場	新設	交流ゾーン
駐輪場（東側）	廃止	

駐輪場（西側）	廃止	
駐輪場	新設	交流ゾーン

【整備後の想定配置図】

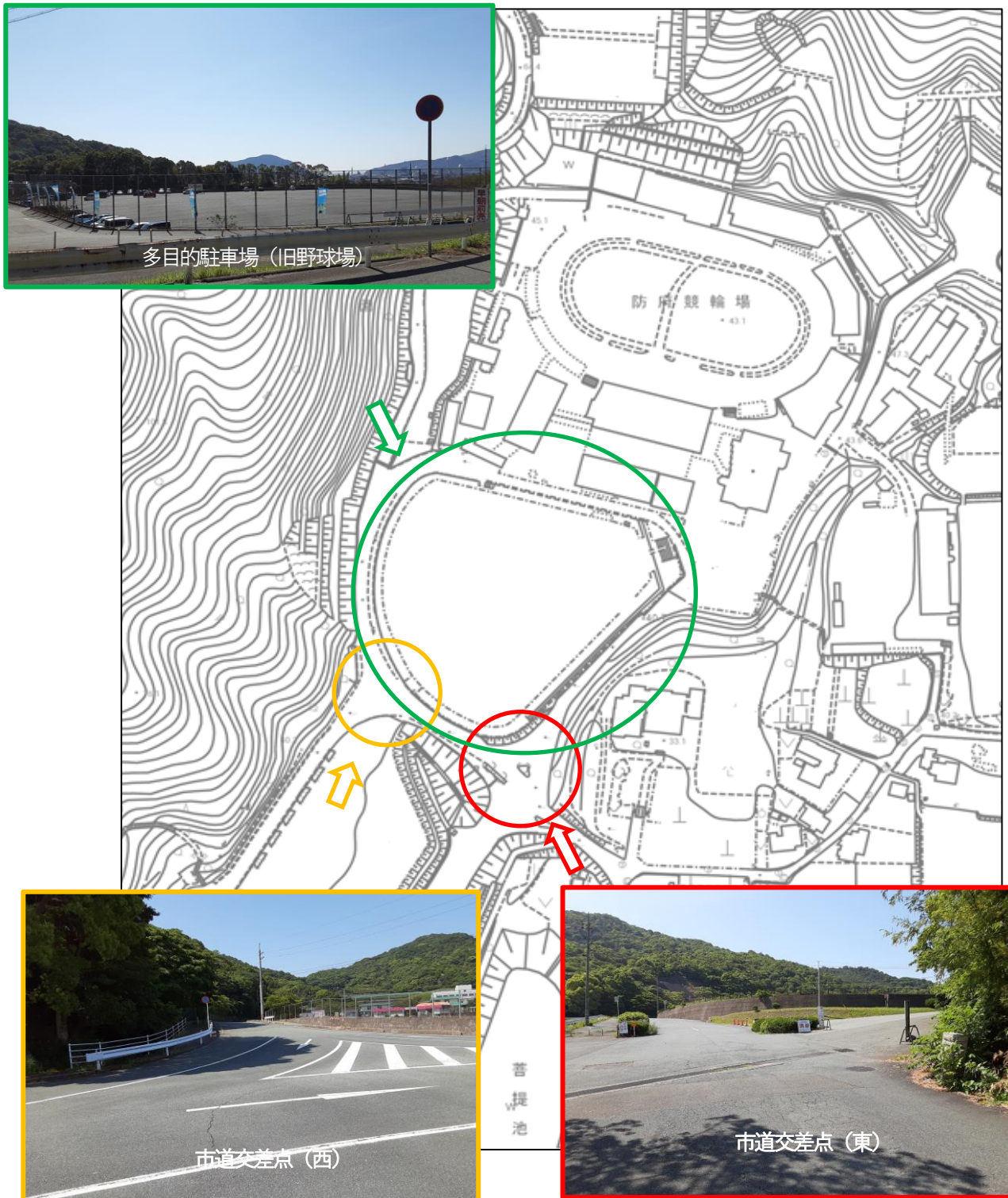


(4) 事業費及び整備スケジュール（メインスタンド）

- ・概算事業費 15～20億円程度（解体・設計を含む）
- ・整備スケジュール（予定）
 - 設計 令和3～4年度
 - 解体 令和4～5年度
 - 建設 令和5～6年度
 - 竣工 令和6年度

3 周辺施設の整備方針

防府競輪場周辺の見通しが悪くなっている市道や、老朽化が進んだ工作物（旧野球場）について、必要な整備を行うため、関係機関等と調整をしていく。





防府市 産業振興部 競輪局

TEL : (0835) 22-1212

FAX : (0835) 22-8552

e-mail : keirin@city.hofu.yamaguchi.jp

防府競輪 HP : <https://hofukeirin.jp/>



防府競輪 HP QRコード